

1 作品寄贈について

大阪府岸和田市在住の天相画家である大谷笙紅（おおたにしょうこ）氏から、竹取物語ゆかりの地である広陵町に5点からなる連作の「竹取物語」の屏風作品の寄贈があった。

作品贈呈式に先立ち、11月に開催した町文化展覧会において、作品の一部を公開し、来場者から非常に高い評価を得た。

令和5年12月5日（火）に広陵町総合保健福祉会館「さわやかホール」大会議室に全ての作品を展示し、町三役、議会正副議長、議会議員、社会教育委員等の出席のもと、作品贈呈式及び感謝状贈呈式を行った。

寄贈を受けた屏風は、毎年町文化展覧会で順に展示するほか、町内公共施設での展示に向けて準備中。



作品贈呈式



文化展覧会展示と画家

「天相画」とは、

「宇宙と調和した心の平安」を求め、墨相画という範疇を越えた、人の心と天の意志が和合したもので、画家が墨相画探求の末に見出した絵画表現。

2 画家について

大谷笙紅（おおたにしょうこ）氏

昭和17年大分県佐伯市生まれ。本名大谷洋子。昭和35年愛知県立半田高校卒業。昭和39年愛知教育大学卒業。大阪府岸和田市立葛城中学校教諭。昭和43年教諭退職。花王株式会社入社（大阪生活科学研究所）花王初の女性ブランドマネージャー。昭和63年に退社し、泉光寺住職に禅画の手ほどきを受ける。

平成10年墨相会入会、武井泰道に師事。以降、日本墨相展に毎年出品。平成15年、16年、19年には大賞受賞、その他、特別心技賞、金賞、銀賞、銅賞など多数受賞。平成17年墨相画心統一筆法の師範科正師範となる。岸和田市浪切ホールにて第1回個展開催。公益財団法人「天風会」会員。平成29年大谷笙紅作品集出版。

3 シリーズ「竹取物語」について

画家としての歩みを日本最古の物語といわれる『竹取物語』に見立てて表現し、5点からなる連作を完成させた。

師・武井泰道との出会いを、かぐや姫が竹藪の中で翁に発見される場面に重ねた第一作《一会の譜》。

師に見守られながら歩み始めた自分を、幼子たちの姿に重ねた第二作《和の詩》。

様々な経験による画家の精神的な深まりが、幽玄な竹林の景色に投影された第三作《魂のふるさとを求めて》。

人の魂を無数の蛍に見立て、その光が竹林を抜け飛翔する様子を描いた第四作《帰幸蛍》。

第五作《安心》では、その魂たちが『竹取物語』のラストシーンさながらに月へ還る場面が描かれシリーズは完結した。

（出展：画家 大谷笙紅 ホームページ）

4 作品概要

作品は屏風仕立てとなっている。1作品目が3つ、2作品目から4作品目までは2つに分かれ、5作品目は一体となっている。それぞれは、布袋に入れた上で段ボール箱に入っている。

【作品一覧】 ※ それぞれの作品の大きさの比率は同一。

竹取物語そのI「一会の譜」



150×450cm (150×150cm×3枚)

竹取物語そのII「和の詩」



150×300cm
(150×150cm×2枚)

竹取物語そのIII「魂のふるさとを求めて」



150×300cm
(150×150cm×2枚)

竹取物語そのIV「帰幸蛸」



150×300cm
(150×150cm×2枚)

竹取物語そのV「安心」



150×300cm
(一体)